

# アンゴラ難民救援へ

AMDA派遣 富良野の田村医師

【富良野】国際医療ボラ  
ンティア団体のアジア医師  
連絡協議会（AMDA、本  
部・岡山市）によるアフリ  
カ・アンゴラでの難民救援  
活動に、富良野市山部町、  
山部厚生病院副院長の田村  
佳久医師（三）が派遣され

る。十二月中旬から約三方  
月間、他のアジア人医師ら  
と病院再建などに当たる。

田村医師は徳島大卒で、  
一九九一年から同病院に勤  
務し、主に内科を担当して  
いる。「阪神大震災などで  
何もできなかったことが心  
に引つ掛かっていた」と今  
年九月にAMDAに入会、  
海外での活動を志願してい  
た。

AMDAが九月から始め

たアンゴラでの活動は、人  
口約十万人の北部の都市サ  
ンザ・ポンボで展開。内戦  
で荒れた市内唯一の病院の  
再建、巡回診療などを行い、  
医療面を安定させて隣国サ  
ールからの帰還難民の定  
着を図っている。

田村医師は来月初めに山  
部厚生病院を休職し、十九  
日に離日、三月中旬まで滞  
在する予定。AMDAでは  
すでに調整員を兼ねた日本  
人医師一人のほかネパー  
ル、バングラデシュからの  
医師と日本人看護婦二人を  
派遣しており、田村医師は  
「とにかく行って自分がで  
きることをやりたい」と張  
り切っている。



AMDAの一員としてアンゴラへ派遣される田村医師